

## 品薄！「カロナールがない」と焦る人に伝えたい事・知っておきたい「代用薬」と「アセトアミノフェン」

2022/07/31 高垣 育：薬剤師ライター、国際中医専門員 東洋経済



薬剤師がアセトアミノフェン「カロナール」について解説します（写真：IYO/PIXTA）

新型コロナウイルス感染症などで、発熱や痛みがあるときに医師が処方してくれる解熱鎮痛薬の「カロナール」の不足が問題になっています。発売元の製薬企業は、すべての注文に対応することが難しくなっていることを受け、出荷量を調整するため厚生労働省と検討を始めたそうです。

もし今、高熱が出たら飲む薬はなく、ガマンするしかないのでしょうか。3回目、4回目の新型コロナワクチンを接種しようと思っている人は、接種部位が痛くなったときに飲む薬がなかったら、痛みを耐えるしかないのでしょうか。

結論からいうと、カロナールの代わりに使える薬はありますから、心配しなくても大丈夫です。

「カロナール」は商品名

カロナールが不足しているというニュースを見聞きして、「コロナに感染したり、ワクチンを接種したりしたときに熱や痛みが出たら、ほかの薬は使えるの？」「もし、代替りの薬がなかったら、ひたすらガマンするしかないの？」。そんなふうにな不安になった人がいるかもしれません。

でも、どうか安心してください。繰り返しになりますが、カロナールには代替りになる薬があります。

少しややこしいかもしれませんが、「カロナール」は解熱鎮痛作用がある「アセトアミノフェン」という薬の成分につけられた商品名です。

食品で例えると、わかりやすいかもしれません。

「ミネラルウォーター」には、「い・ろ・は・す」「天然水」「クリスタルガイザー」「ウィルキンソン」など、メーカーによってさまざまな商品が販売されていますよね。それと同じように、「アセトアミノフェン」という薬の成分に対して、複数の製薬会社がさまざまな商

品名をつけて販売しているのです。  
それが以下の表になります。

■ 成分名がアセトアミノフェンの医療用医薬品（医師処方）	
商品名	製薬会社
カロナール錠200 カロナール錠300 カロナール錠500	あゆみ製薬
アセトアミノフェン錠200mg 「マルイシ」 アセトアミノフェン錠300mg 「マルイシ」 アセトアミノフェン錠500mg 「マルイシ」	丸石製薬
アセトアミノフェン錠200mg 「トーワ」	東和薬品
アセトアミノフェン錠200mg 「タカタ」	高田製薬
アセトアミノフェン錠200mg 「NP」	ニプロ
アセトアミノフェン錠200mg 「三和」	三和化学研究所

(出所) PMDAのデータベースより東洋経済作成

TOYOKEIZAI ONLINE

これを見ていただくとわかりますが、カロナール以外にも同じ成分の薬はいくつかあります。

薬局では、患者さんの治療に必要な薬を確保するため、カロナールが入荷しづらくなった場合には、ほかの製薬会社から同じ成分の薬を取り寄せるなどの対処をしています。ですから、薬が足りなくて手に入らないということは、ほとんどないのです。

新型コロナの第7波の影響で、最近は医療機関の発熱外来がたいへん混雑し、熱が出るなど具合が悪くなったときに予約がとれず、受診できないことが問題になっています。

いざというときのために、医療機関で処方してもらったカロナールと同じ成分であるアセトアミノフェンを、薬局やドラッグストアなどで買って自宅に備えておこうと考える人もいるのではないのでしょうか。

また、3回目、4回目の新型コロナワクチン接種後の発熱や接種部位の痛みを備えたいという人もいるかもしれません。

そこで、ドラッグストアや薬局で処方箋なしで購入できるアセトアミノフェンを成分とする市販薬にはどのようなものがあるか、ご紹介します。

■ 成分名がアセトアミノフェンの一般用医薬品（市販薬）	
商品名	製薬会社
タイレノールA	製造販売：東亜薬品／販売：ジョンソン・エンド・ジョンソン
ノーシンアセトアミノフェン錠	アラクス
ラックル	日本臓器製薬

(出所) JAPICのデータベースより東洋経済作成

TOYOKEIZAI ONLINE

### 非ステロイド性抗炎症薬も使える

なお、ワクチン接種後の発熱や痛みについては、アセトアミノフェンを成分とする市販薬

以外に、イブプロフェン（商品名：リングルアイビー、ノーシンエフ 200 など）や、ロキソプロフェン（商品名：ロキソニンS、ユニペインL など）などの「非ステロイド性抗炎症薬」という種類の解熱鎮痛薬も使用できると、厚生労働省のウェブサイトに書かれています。

ステロイド性抗炎症薬はアセトアミノフェンと違ったメカニズムで、痛みや発熱を抑えます。頭痛や生理痛で使ったことがある人もいるかもしれません。

選択肢が広がったことはうれしい一方、種類が多くてどれを選べばいいかわからないということもあるでしょう。その場合には、遠慮なく薬局やドラッグストアの薬剤師に声をかけてください。

また、治療中の病気があって薬を飲んでいる人などは、薬の飲み合わせの問題で服用を避けたほうが良いケースもあります。不安なことや心配なことがあったら、少し面倒かもしれませんが自己判断で服用する前に主治医や薬剤師に相談しましょう。